

「教育の民主主義」体験を 発信・交流しよう

「戦争する国」への暴走が止まらない。それは平和憲法を破壊し、人権と民主主義の抑圧・圧殺を狙って進行している。「戦争する人権抑圧の国づくり」の一環として、学校教育の民主主義を、制度面でも雰囲気面でも圧迫し窒息させる「改革」・政策も急展開している。

教育が人間を育てるいとなみである以上、そこには当事者相互の交流関係を創り出す体験が必ずともなう。またその体験を通じて「人間と社会への信頼」「平和への願い」を育むという努力が日々重ねられ、そこに権力者が奪いきれない、人間信頼の体験が生きてはたらいっている。

それは「教育の民主主義」体験と呼べるだろう。「民主主義」は決して抽象的なきれいごとではない。民主主義の圧殺が狙われている時代だからこそ、一人ひとりがその成長や日常のなかに「教育の民主主義」の体験を確認し、その意味をとらえ直し、発信・交流することが、権力者の卑劣な野望に対する草の根からの抵抗であると考ええる。

「神はすべての人を通じて真理を語る」。ピューリタン革命の理論的指導者だった詩人J・ミルトンのことばである。真理・真実は権力者ももっているだけでなく、民衆一人ひとりの体験・語りのなかに生きている。

いまの日本で、各分野・各地域から一人ひとりが「教育の民主主義」体験を発信し、それが応答・交流される場が築き出され、それらを通して「平和と人権と民主主義」の大切さを共有する輪が広がる。そのことこそが私たちの「教育の民主主義宣言」である。